

2025年10月3日(金)～2025年11月9日(日)

## 下道基行 《瀬戸内「文化老人類学」資料館》公開のお知らせ

瀬戸内国際芸術祭 2025 秋会期に直島で新たな展開



「Naoshima Creators File／直島表現図鑑#02 直島の地域のアーティスト/田中春樹」の過去の展示風景  
撮影：山本糾



展示品の一部のお菓子の型 撮影：山本糾



島民へ取材する下道

公益財団法人 福武財団（香川県・直島 理事長：福武英明）が運営する宮浦ギャラリー六区では、2025年10月3日(金)から《瀬戸内「文化老人類学」資料館》を公開します。2019年9月から始まったアーティスト・下道基行によるプロジェクト《瀬戸内「文化老人類学」資料館》は、これまでに6回の展示を行ってきました。今回は、瀬戸内国際芸術祭 2025 秋会期に合わせ、第7回となる新たな展示を公開いたします。本展において下道は、直島のクリエイティブなおじいちゃんおばあちゃんに注目。現代アートを扱う瀬戸内国際芸術祭の中で、現代アートのアーティストではなく、80歳以上の島民たちのグループ展を開催します。

## 《瀬戸内「文化老人類学」資料館》について

下道は2020年3月より直島に移住し、さまざまな文化的な活動をされているお年寄りと出会う中で、「直島は昔から文化的な土壌があったからこそ現代アートを受け入れられたのではないか」という仮説を抱きました。その仮説をもとに、直島の生活の中から生まれたクリエイティブなお年寄りを1名ずつ調査、展示する「Naoshima Creators File／直島表現図鑑」を2023年より開始。一人ひとりの人生を取材していくうちに、離島という地理的な制約があったからこそ島内の娯楽を自分たちで作り守る風土が育まれたことや、三菱マテリアル直島製錬所に日本全国から転勤者がやってくることで最新の文化や地方の伝統が混ざり合う土壌が生まれたことなどが浮かび上がってきました。今回の《瀬戸内「文化老人類学」資料館》ではその集大成として、これまで取り上げた4名に加えて新たに数名の調査を行い、直島のお年寄り8名（予定）を紹介する展示を行います。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセッション

メール：[press@fukutake-artmuseum.jp](mailto:press@fukutake-artmuseum.jp) 電話：087-892-2550（平日：8:45～17:30）

本展では、スクラップブックや俳句の短冊など、一人ひとりのクリエイティブな活動にまつわるものが展示されます。また、下道による島民へのインタビューや島民を紹介するイラストパネルなども併せて展示されます。

## 「Naoshima Creators File／直島表現図鑑」について

「Naoshima Creators File／直島表現図鑑」は、下道基行が《瀬戸内「 」資料館》の一環として元直島住民の漫画家と協働して2023年に始めたプロジェクトです。直島の生活の中から生まれたクリエイティブなお年寄りを1名ずつ調査・展示することで、直島の歴史を掘り起こし、アーカイブしています。展示は宮浦ギャラリー六区に併設するギャラリーへんこつで公開されました。

### 過去の展示

- ・ Naoshima Creators File／直島表現図鑑 #01 イワタコンフェクト/岩田正義
- ・ Naoshima Creators File／直島表現図鑑 #02 直島の地域のアーキビスト/田中春樹
- ・ Naoshima Creators File／直島表現図鑑 #03 直島のグッドアイデアマン/佐義達雄
- ・ Naoshima Creators File／直島表現図鑑 #04 本村集落の“ひとり観光課”/立石肇



Naoshima Creators File／直島表現図鑑 #03 直島のグッドアイデアマン/佐義達雄 展示風景 写真：山本糾

## インフォメーション

会期：2025年10月3日(金)～2025年11月9日(日)

休館日：毎週月曜日（ただし、祝日の場合開館、翌日休館）

開館時間：13:00～17:00(最終入館 16:30)

会場：宮浦ギャラリー六区／瀬戸内「 」資料館（〒761-3110 香川県香川郡直島町 2310-77）

鑑賞料金：520円（15歳以下は無料）※瀬戸内国際芸術祭2025 パスポート対象施設

アーティスト：下道基行

キュレトリアル・アドバイザー：三木あき子

主催：公益財団法人 福武財団

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：[press@fukutake-artmuseum.jp](mailto:press@fukutake-artmuseum.jp) 電話：087-892-2550（平日：8:45～17:30）

## 瀬戸内「 」資料館について

アーティスト・下道基行による《瀬戸内「 」資料館》は、2019年9月から始動しました。瀬戸内海地域の景観、風土、民俗、歴史などについて調査、収集、展示するプロジェクトです。そこに住む人々や関わりを持つ人々とともに、各分野の専門家も交えて活動を展開します。「 」の中には毎回の展示のテーマが表記されます。一連の営みは記録として保存し、次への展開に活用していきます。2020年には、東京都現代美術館で開催された「Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021 受賞記念展」にて下道基行の近年の代表作として展示されました。

### 過去の展示

第1回 瀬戸内「緑川洋一」資料館（2019年9月28日～11月4日）

第2回 瀬戸内「百年観光」資料館（2020年7月4日～8月29日）

第3回 瀬戸内「鍛造景」資料館（2021年8月14日～9月26日／2022年4月14日～5月18日）

第4回 瀬戸内「中村由信と直島どんぐりクラブ」資料館（2022年8月5日～9月4日／9月29日～11月6日）

第5回 瀬戸内「直島部活史」資料館（2023年9月9日～12月23日／2024年3月2日～2024年7月27日）

第6回 瀬戸内「漂泊 家族」写真館（2024年8月9日～10月14日／2025年4月18日～5月25日／8月1日～8月31日）

## 宮浦ギャラリー六区

2013年、直島・宮ノ浦地区に設置されたギャラリー。建築家・西沢大良による設計で、かつて島民が娯楽の場として通った「パチンコパーラー999（スリーナイン）」を展示施設として改修しました。隣接する公園とともに、島内外の人々が集う憩いの場となることを目指しています。2019年9月からは下道基行によるプロジェクト《瀬戸内「 」資料館》を展開しています。



宮浦ギャラリー六区 写真：山本紉

## アーティストプロフィール

### 下道基行（したみち もとゆき）

1978年岡山生まれ。2001年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。日本国内の戦争遺構の現状を調査する「戦争のかたち」（2001-2005）、祖父の遺した絵画と記憶を追う「日曜画家」（2006-2010）、日本の国境の外側に残された日本の植民／侵略の遺構をさがす「torii」（2006-）など、展覧会や書籍、ワークショップなどで発表を続けている。

フィールドワークをベースに、生活のなかに埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真やイベント、インタビューなどの手法によって編集することで視覚化する。2019年、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館の参加アーティストでもあり、国内外さまざまな展覧会に参加。さらに、作家として作品をつくることと並行して、「Re-Fort Project」（2004-）、「新しい骨董」（2014-）、「旅するリサーチラボラトリー」（2015-）など、さまざまな人々とのグループ／コレクティブでのプロジェクト活動も多数行っている。2019年より《瀬戸内「」資料館》を企画・監修し、「館長」に就任。